

## 職務に係る業績調書

(期間：平成24年10月1日～平成27年6月30日)

学長 三島 良直

学長就任時に掲げた「大目標達成へ向けた方針」に基づき作成  
ゴシック体箇所は、H26.3.13学長選考会議に提示した項目以降の追加業績と回数等数値の通算値を示す

1) 構成員の団結と調和を築き、守るための施策	
* 主要各会議の意義確認と 会議の実質化	○審議・報告事項の精選 (H24) 重要事項について十分に議を尽くすことができる会議進行に努める。 ○委員会等構成員の見直し (H25) 部局長等の出席が必須の会議を厳選するとともに、全体の会議数の減少を目指す。
* 各会議構成委員の役割の 明確化	○部局長・評議員研修の実施 (H24 から年1回) 大学の方針、各会議の趣旨の徹底と構成委員の役割に応じた自覚
* 重要事項の審議内容が構 成員に伝わる仕組み作り	○役員会・教育研究評議会の議事メモの作成・配布 (H24.12 から)
* 執行部と教職員のコミュ ニケーション	○各部局教授会を回って執行部の方針を説明 (H24.12～H25.3) ○教育改革に関する全学説明会 (H25.5, H25.12, H26.3, H26.6, H26.12) ○研究費不正使用防止の体制構築について全学に説明 (H26.12) ○各学院等創設準備会への説明会 (H27.4～5 全7回)
2) 大学の中・長期計画の立案と安定経営に向けた施策	
* 東工大が目指すものの明 確化と積極的な提示	○長期目標の明確化 ～2030年までに「世界トップ10に入るリサーチ ユニバーシティ」を目指す～ ○「教育改革推進に向けての当面の取組方針」を役員会決定 (H25.9) ○「研究改革の基本方針」を役員会決定 (H27.1) ○スーパーグローバル大学創成支援：構想「真の国際化のためのガバナ ンス改革による Tokyo Tech Quality の深化と浸透」の採択 (H26.10) ○改革の方針を学内(教授会, 全学説明会, 各種研修等)及び学外(HP, 企業, 文部科学省, 教育再生実行会議, 日本経団連等)に発信 ○教育改革に関する記者発表(H25.10.11, H26.6.27) ○新たな「教育研究資金不正防止計画」の策定及び記者発表 (H27.3.27) ○種々の国際学長会議等への出席と講演等 … 別紙 資料1 参照
* 学長直属のブレイン組織 による大学運営の定常的 な検討	○学長補佐室の設置, 教育改革の素案等を検討 (80回開催) ○学長アドバイザーボードの設置, 長期的な視点からガバナンスの在 り方等を検討 (6回開催) ○学長を本部長とする教育改革推進本部を設置 (H25.9), 同本部に基本

	<p>構想会議を置き，大学改革の基本方針を検討（以降 51 回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育改革推進本部を大学改革推進本部に改組（H26.7），同本部に 10 の作業部会を置き，教育，研究，ガバナンスの改革を一体的に推進（部会員：教員 83 名，事務職員 51 名）</li> <li>○部局長の選考方法を教授会の意向表明から学長指名に変更（H26.12）</li> <li>○人事ポイントの全学運用及び新たな教員選考方法の決定（人事委員会，人事諮問委員会の設置等）（H27.2）</li> <li>○3 キャンパスの総合的利用方針及びスペースチャージ制の導入を決定（H27.2）</li> <li>○情報活用 IR 室の設置（H27.4）</li> <li>○学長裁量経費について全学一定割合の 2%相当を 4%相当に拡充（H27 年度：10 億 8 千万円 対 H24 年度比 約 4 億 6 千万円増）</li> </ul>
<p>* 社会連携と同窓力の新たな展開の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会連携本部の設置（H25.4），基金担当副学長職の設置（H26.4 採用）</li> <li>○蔵前工業会支部総会への出席（5 回）</li> <li>○目黒区との連携・協力に関する基本協定を締結（H26.3）</li> <li>○東工大サポーターズ会員制度の開始（H26.6）</li> </ul>
<p><b>3) 東工大ならではの学部・大学院教育改革の実施</b></p>	
<p>* 本学の教育の質を世界トップレベルに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育改革推進本部にカリキュラム・シラバス部会を設置（H25.9），カリキュラムの刷新を推進</li> <li>○3 学部 6 研究科を 6 学院及びリベラルアーツ研究教育院に再編・統合する構想を決定（H26.6）</li> <li>○系及びコース等の担当教員（H26.12）及び各学院の教育課程等の設置計画を決定（H27.5 設置手続書類を文部科学省に提出，H27.6 大学設置・学校法人審議会における審査で設置可と認められた）</li> <li>○教育革新センターの設置（H27.4）</li> <li>○学生の海外派遣・交流進化に向けた海外大学訪問（KAIST，ミネソタ大，カーネギーメロン大，UCSB，MIT，ハーバード大など） … 別紙 資料 2 参照</li> <li>○MIT 等の世界トップレベルの海外大学からの教員招聘プログラムの開始（H26 3 名，H27 11 名（予定）を特任教員として雇用）</li> <li>○「東工大レクチャーシアター」（H27.3），アクティブ・ラーニング対応講義室の整備（7 室）</li> </ul>
<p>* 大学自体の国際性を高めるための教職員の意識改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外 VIP の本学訪問及び講演会の開催（H25.4 ケリー米国務長官，H25.7 ルース駐日米国大使，H27.4 タイ王国シリントーン王女殿下）</li> <li>○教育改革に関連する海外大学の調査（MIT，Caltech，ハーバード大，ケンブリッジ大，ETH など計 20 機関に教職員 41 名を派遣）</li> <li>○「教育改革国際シンポジウム」開催（H26.3）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「スーパーグローバル大学創成支援事業 キックオフ・シンポジウム」開催 (H27. 1)</li> <li>○MOOCs のコンソーシアムである edX に参加 (H26. 10), シンポジウム「MOOCs for Science &amp; Engineering Education」開催 (H27. 3)</li> <li>○英語による教授法研修の開催 (H26. 12, H27. 3)</li> </ul>
<b>4) 研究活動の活性化と成果の社会への提示</b>	
* 若手研究者への多様な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究大学強化促進事業の採択, 多様な支援を開始 ※H26 年度末実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な共同研究推進のための派遣・招聘プログラム (105 件)</li> <li>・国際学術論文作成支援プログラム (408 件)</li> <li>・研究マネジメント人材の確保 (URA 7 名)</li> </ul> </li> <li>○「研究の種発掘支援」に加え, 「東工大の星」支援の開始 (9 名の若手研究者に大型研究費支援)</li> <li>○研究支援(A)大型研究プロジェクト形成支援 (2 名), 及び研究支援(B)若手異分野融合研究支援 (4 名) を開始</li> <li>○若手教員を MIT に派遣 (3 名(うち 1 名は予定) 延べ 11 カ月)</li> </ul>
* 研究成果・活動の社会への説明や社会との連携による東工大の存在感高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HP をリニューアルし, 本学研究者の顔・研究内容を順次紹介 (14 名)</li> <li>○企業訪問にて本学の活動状況の説明 (H25.8~H26.3 31 社)</li> <li>○製造業企業との組織的連携協定の締結 (H27. 1 TDK, H27. 4 小松製作所)</li> <li>○「Tokyo Tech Inspiring Lecture Series」の開始 (H26. 7)</li> <li>○「ウブサラ大学-東工大合同シンポジウム」開催, 大学間交流の進展を約する基本合意書の締結 (H26. 9)</li> <li>○「東工大-MIT 国際産学連携ワークショップ」(H27. 1) 及び「東工大-アーヘン工科大学国際産学連携共同シンポジウム」(H27. 3) 開催</li> </ul>
<b>5) 学生支援の充実</b>	
* 健全な精神と学ぶ意欲を維持できる環境作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学の世界展開力強化事業やグローバル人材育成推進事業による留学支援</li> <li>○イノベーション人材養成機構の設置 (H25.4), 蔵前工業会との連携による就職情報交換の集いなどキャリア支援強化</li> <li>○学生との意見交換会の開始 (H26. 10 から)</li> <li>○附属図書館をリニューアルし, アクティブ・ラーニングに対応 (H27. 1)</li> </ul>
* 厚生施設の充実と留学生等の宿舍整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課外活動への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テニスコート, フットサルコートの整備</li> <li>・学生サークル (マイスター, 陸上競技部等) への支援</li> </ul> </li> <li>○提携寮 (梶が谷国際寮) の新規契約 (H26.4 開館 60 室)</li> <li>○大岡山職員宿舍 CC 棟を学生宿舍へ改修及び緑ヶ丘学生寮 (仮称) の設置を決定</li> </ul>

6) 政策策定等への関与を通じた本学のプレゼンス向上 (追加分)	
* 政府関係委員会・審議会への参画	別紙 資料3 参照

## 資料 1. 国際学長会議等への出席と講演等の実績

年月	会議等
H24.10	President's Advisory Council Meeting, Daejeon, Korea
H25. 5	Global University Summit, London
H25.10	President's Advisory Council Meeting, Daejeon, Korea
H26. 4	日英研究教育大学協議会（安倍首相出席）, London
H26.10	日墨学長会議, Guanajuato, Mexico
H27. 3	日露学長会議, Tokyo

## 資料 2. 海外大学との連携強化のための訪問活動の実績

年月	訪問先等
H25. 4	University of Minnesota, President（協定署名式）
H25.12	UC Santa Barbara, Chancellor（協定締結の協議）
H26. 2	MIT, President（LOI 締結の協議）
H26. 9	Uppsala University, President（LOI 締結） KTH Royal Institute of Technology, President ETH Zurich, President
H26.12	Tsinghua University, President（167 <sup>th</sup> Tsinghua Global Vision Lecture として東工大の国際化について教職員、学生に講演）
H27. 2	Nanyang Technological University, President Singapore University of Technology and Design, Vice President（LOI 締結の協議）

資料3. 政府関係委員会・審議会への参画実績

年月	会議等
H26. 2～	内閣府：総合科学技術・イノベーション会議（旧 総合科学技術会議） 専門委員
H26. 2～	文部科学省：施設整備調査研究協力者会議委員
H26. 2～ ～H26. 3	外務省：日トルコ科学技術大学検討委員会委員 文部科学省：大学設置・学校法人審議会専門委員
H26.5～	文部科学省：元素戦略運営統括会議構成員
H26.11～H27.1	経済産業省：第5回キャリア教育アワード審査委員会委員長
H26.11～H27.1	文部科学省・経済産業省：キャリア教育推進連携表彰審査委員会委員長
H26.11～  ～H27. 2	文部科学省：英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験 の活用促進に関する連絡協議会委員 文部科学省：科学技術・学術審議会専門委員
H27. 3～	文部科学省：科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会臨時委員
H27. 3～  ～H27. 3	文部科学省：科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 ナノテク ノロジー・材料技術委員会主査 財務省：独立行政法人評価委員会委員長
～H27. 3	財務省：独立行政法人評価委員会 造幣局分科会主査
H27. 4～	経済産業省：国立研究開発法人審議会会長
H27. 5～	文部科学省：高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議委員